



Resta

リハビリテーション研修会案内 平成30年10月

Resta代表 久保田 勝徳

～参加しやすく 参加したくなる 質の高い勉強会を目指して～

期日：平成30年11月4日（日） 10:00～16:00（受付9:30～）

会場：福岡国際会議場 401-403室（福岡県 福岡市 博多区 石城町2-1）

会費：¥4,500円

【講演】

『身体性システム科学から考えるリハビリテーション』

講師：森岡 周 先生（畿央大学 教授）

～Abstract～

「私の身体のように思えません」といった自己意識は、患者の病態を示す発見的データです。大なり小なり、脳卒中患者はこうした意識経験を有しています。身体性は、Gallagher(2000)によって「自分の身体が自分のものであるという所有の意識(身体所有感)」と「この自分の運動を実現させているのは自分自身であるという主体の意識(行為主体感)」に区別されました。また、Gallagherは自己意識を身体性の観点から、minimal self(原始的自己)とnarrative self(物語的自己)に分けました。

故・砂原茂一先生の著書「リハビリテーション」には「健康とは身体的、精神的、社会的にうまくいっていること(well-being)で、単に病気や虚弱でないということではない」とWHOの定義が引用され、リハビリテーションとは何かを問いかけています。この身体的、精神的、社会的にうまくいっているとは、私らしくこの身体で生きられていることと解釈できます。

本講演では、脳卒中後に起こる身体性変容の病態(運動麻痺、学習性不使用、高次脳機能障害、疼痛)あるいは運動器疾患後に起こる病態(異常知覚、疼痛)について自験データを含めて説明し、身体性システム科学の視点から、リハビリテーション医療の進むべき道を考察します。

日々の臨床においては、ニューロリハビリテーションに関する知見をもとに、脳血管障害者に対する病態解釈や介入方法を検討する機会が多いことかと思えます。さらに近年では、脳科学の発展に伴い、脳科学とシステム工学を取り入れた『身体性システム科学』に関する報告も散見され出していることから、益々個々の症例に適応したリハビリテーションの展開が望ましい時代に突入しています。そこで今回は、ニューロリハビリテーションの第一人者である森岡周先生から、脳血管障害者の運動機能の回復や学習過程の根幹である身体性の獲得のメカニズムについて最新の知見をご教示していただくだけでなく、身体性システム科学から考える臨床の介入方法についても解説していただきます。

スタッフ一同、開催を心待ちにしておりますので、是非、多くの皆様にこの機会をご利用していただけると幸いです。

(Resta事務局)

【申込み方法】 ホームページのリニューアルに伴って、研修会の申し込みが簡便になりました。

「NPO法人FSA」のホームページより「Resta研修会」の申し込みが可能です。

右記のQRコードからホームページをご確認いただき、必要事項の入力をお願い致します。

その後、受付完了メールを送信させていただきます。

E-Mail: resta_fukuoka@yahoo.co.jp

Resta リハビリ

検索 

